

佐大でがんゲノム医療

遺伝子異常検査受け治験

佐賀大学医学部附属病院 先進医療。日本で普及が
際は、がん患者の遺伝子
異常を調べる「がんゲノ
ム検査」の結果に基づき
治療を実施している。特
定のがん遺伝子が増えて
いる患者を対象に、2種
類の薬を併用する治療を
行う。



金子 尚子
センター
長

有効性や安全性が確認
できれば、がん患者に新
たな治療を提供する可能
性が広がり、希少がんの
治療に公的医療保険の適
用が拡大されることも期
待される。

「がんゲノム医療」は
患者のがん組織や血液な
どを解析して原因となる
遺伝子の変異を調べ、適
した薬や治療法を最も

先進医療。日本で普及が
進み、今年6月からはが
んゲノム検査が保険適用
になった。同病院は厚生
労働省の「がんゲノム医
療連携病院」に指定され
ている。

今回の治療は、がんの
部位を絞らずに特定の遺
伝子異常が認められるが
んとしてまとめて行わ
れ、がんゲノム検査を実
施して「HER2」とい
う遺伝子の増幅があった
患者が対象になる。患者
にがんを追い撃ちして攻
撃する二つの分子標的薬
を併用して投与し、いず
れかが有効かどうかなど
を確認する。

既に薬が保険適用にな
っていることなどを理由
に胃がん、乳がん、大腸
がんは含まれず、子宮が
んや膀胱がんといった患
者数の少ないがんを想定

2人投薬治療 保険適用拡大に期待

する。現在は薬が保険適
用にならずに高額な治療
費になるが、治療の患者
は負担が軽減される。同
病院はこれまで患者2人
に行っている。

治療は日本医療研究開
発機構（AMED）の革
新的がん医療実用化研
究事業の支援を受けて
全国8施設で実施し、
九州では佐賀大医学部
附属病院だけ。2021
年3月までの2年間で、
全体で38症例を予定す
る。

同病院がんセンター長
の荒金尚子呼吸器内科診
療教授は「がんゲノム検
査を受ける患者が今後増
えることが見込まれる。
希少がんなどの薬も保
険適用になれば患者の
負担軽減につながる」と
話す。

(日本放送)